

# 機は熟した——。

ツアープロという「選手」と  
ゴルフ部監督という「指導者」の二刀流ゴルファー

名将と再会したのは何十年ぶりだろう。  
予期せぬ場所での出逢い、そして懇願された。

「ゴルフ部監督になって欲しい」  
2013年7月のことだった。

ツアー通算7勝、シニアツアー1勝の湯原信光は、  
プロ野球の広島カープ古葉竹識元監督と思いがけない場所で会った。  
それが、指導者への道を歩み出す第一歩になるとは思いもしなかった。

湯原信光

Nobumitsu YUHARA

## 凶星

人懐っこいその笑顔は、何十年経っても変わらないままだった。笑うと眼鏡の奥のまんまる眼が一段と大きくなる。その表情を見た途端、タイムスリップして当時のような会話を不思議と交わせる。「元氣そうだね」「お陰様だね」トーナメント会場では選手と日本プロゴルフ協会（PGA）役員という立場の違いがあったものの、同学年との再会は、心をいつも和ませてくれた。

笑顔をごぼすと少し欠けた前歯が見える。旧知の間柄だけに気さくな言葉を掛けられる。「まだ、治していないの。歯医者へ早く行きなよ」。

右手で口を覆いながら、治療を勧められたその協会役員は即答する。「勘弁してよ。医者嫌いなのを昔から知っているでしょ」「相変わらずだなあ」アドバイスしたその選手は呆れ顔。その後、ともに笑い合うのが常だった。ティーオフ前の緊張感を解くための儀式のようでもあった。

その選手の名は湯原信光、PGA役員の名は並木弘道。学生ゴルフ部時代から共に研鑽を積み重ねて来た二人だった。

湯原は日本大学ゴルフ部の主将、選手として活躍し、1979年には日本アマチュアゴルフ選手権を制してアマチュアゴルファーの頂

点に立った。アマチュア通算27勝を挙げていた。日本大学ゴルフ部は関東学生連盟リーグ戦Aブロックで1位の座を守り続ける常勝チームだった。

「Aブロックのリーグ戦では、並木の顔を一度も見たことがありませんでした。でも、学生の大会では、必ずと言ってよいほど見かけます。並木が所属していた当時の国際商科大学（現・東京国際大学）ゴルフ部はAブロックではなかったものの、彼には実力があつたからこそ個人戦の大会には出場できていた。大会会場でちよくちよく会うようになり、同学年だったこともあつて気軽に雑談も交わす間柄になっていました」（湯原）

大学卒業後、ともにプロ転向し、湯原はデビュー2年目にツアー2勝を挙げてシード選手となり、以後20年間シードを保持する。

一方、並木はレギュラーツアーを主戦場にしたものの、賞金シードを獲得することはなかった。やがて人柄の良さ、人望の厚さからPGA役員の職務に就き、トーナメントを陰で支えるようになっていたのだった。

PGA主催競技トーナメントで湯原は久しぶりに並木の姿を目にした。以前とは違って体が痩せてしまったように見えた。

「どうした？ 随分細くなったよね」とすぐに声を掛けた。

「そうかな……」。凶星の指摘に並木が動揺しているのは、すぐに

わかった。

「マジで、一度病院で診てもらいなよ。医者嫌いだなって言い張っていちやダメだよ。大将からもキツク言ってもらうからね」。並木の体調を気遣った湯原は、間髪入れずに語気を強めてそう断言した。大将とは並木の兄貴分プロであり、雑草軍団というプロ集団のリーダー格だった中山徹のことだった。

「わかった、わかったよ。大将からもだなんて……勘弁してよ」  
気の置けないプロ仲間からの忠告に、並木が嬉しさと戸惑いの入り混じった表情を浮かべたのが印象的だった。祭りのあとの山車だけににはなるな！ の思いがよぎった。

た。

プロ転向後、湯原はウェア契約先のゴルフイベントでオフシーズンに広島県へ出掛ける機会が増えた。そのイベントで地元プロ野球球団の古葉竹識監督（当時）と出逢った。それ以降、古葉監督は何かと懇意にしてくれた。

古葉監督は1979、80年に日本シリーズ連覇を遂げ、84年も広島カープを3度目の日本一に導いた名将であり、座右の銘は「耐えて勝つ」。常勝チームを築き上げたその手腕、妥協を許さない采配、勝負の哲学に学ぶことが多かった。湯原にとって尊敬する人物の一人

になっていた。

## 覚悟

レギュラーツアー通算7勝を挙げ、湯原は2007年にシニアツアーデビューする。シニアツアー参戦4年目となる10年、「皇潤クラシックシニア」で首位の座を一度も譲らずの「完全優勝」でシニア初勝利を飾っている。

シニアツアー選手としてトーナメント転戦する日々を送っている湯原に、思いもしない連絡が届い





湯原 信光 (ゆはら・のぶみつ)

1957年8月14日生まれ、東京都出身。7歳からゴルフを始め、74、75年に日本ジュニアゴルフ選手権を連覇。日本大学ゴルフ時代の79年には日本アマチュアゴルフ選手権で優勝し、アマチュア通算27勝。翌80年にプロ転向し、81年の関東オープンでツアー初優勝を果たす。ツアー通算7勝。シニアツアーでは2010年の皇潤クラシックシニアで初勝利。13年に東京国際大学ゴルフ部監督、同大学人間社会学部特命教授に就任。現役プロ選手がフルタイムの監督として学生を指導するのは日本初だったことでも注目を集める。身長173センチ、体重80キロ、血液型O型。東京国際大学所属。

た。2013年7月のことだった。平日頃お世話になっている知人から、「一席設けるから時間を作って欲しい」との電話が入った。しかも、その知人は同席しないという話に困惑した。「ぜひとも顔を立って欲しい」の言葉をもらっては、無下に断れなかった。

「東京国際大学の倉田信靖理事長・総長がぜひ一度会いたいというのです。えっ、なぜ？ 僕とは何の縁もゆかりもないのに一体どんな話なのだろう。いくら考えても答えは見つかりませんでした」それでも湯原は知人の懇請を受けすることにしたのだった。

切り出した。「何十年ぶりの再会だね。元気に活躍しているようだね。僕がこの席に居るのは、実は君を口説くためなんだよ」古葉の柔和な笑顔が湯原の緊張感を少し和らげてくれたものの、「口説く」という言葉が妙に引っ掛かった。

古葉は08年4月に東京国際大学の硬式野球部監督に就任。11年の東京新大学野球春季リーグ戦で初優勝を飾り、同年6月の全日本大学選手権ではベスト4入りを果たすほどの強豪野球部を作り上げていた。「硬式野球部と同じく、ゴルフ部も強化クラブながら主だった成績を挙げられていない。大学では有能なゴルフ指導者を求めている。どうか僕と同じく強化クラブの監督となってゴルフ部を鍛え上げ、ゴルフ部を強豪チームに押し上げて欲しい。監督に相応しい人材は君しかないんだよ」

「今後のゴルフ界のために、東京国際大学のためにも、ぜひ協力して欲しい。まだまだやれる。覚悟して長年努めて欲しいんだ」。古葉は語気を強めて言い寄った。「有難いお言葉に感謝します。ただ、まだツアー参戦している身ですから、ゴルフ部員の指導を毎日とはできないと思います。僕一人ではとても難しいし、具体的に相談したい人もいるので電話を一本掛けさせてください」

湯原は一礼して離席し、淵脇常弘に電話した。「僕がゴルフ部監督に就いたら手助けしてくれるかな」。2001年から湯原の帯同プロコーチを務め続けていた淵脇は、監督就任を辞退するよう勧めるに違いない。湯原は、そう思っていたが「喜んでお手伝いしますよ」と淵脇は間髪入れずに答えたのだった。

機は熟した。選手としてゴルフを追求するだけでなく、指導者としてゴルファーを育成する立場になる時を迎えたように思えた。倉田、古葉の熱意をしっかりと受け止め、湯原は腹を決めたのだった。東京国際大学の建学精神は「公

徳心を体した真の国際人の養成」であることを倉田から聞いた。「公德心」とはグローバル社会における多様性や異文化の理解、他者への配慮、人間性の重視など人類の普遍的な価値観に立ち「公」のために貢献する心を意味する。湯原は自分自身の経験を部員たちに正しい言葉で正しく伝え、ゴルフ部での活動を通して人間力を高め、社会人になってからもゴルフを続けて欲しい。そんな思いを持ってゴルフ部監督に就任した。実は前任の監督が並木弘道だったことは知っていた。同大学ゴルフ部OBだった並木が2010年に監督に就任し、6ブロックある関東大学リーグのF、E、Dブロックでそれぞれ優勝させ、Cブロック対抗戦で準優勝させるほどの実績を挙げていた。しかし、体調を崩し長期療養を送っていたのだった。並木は顧問となり、湯原は見舞い代わりの電話を入れ、監督就任までの経緯を伝えた。「ツアーに出場しながらの監督業は大変だと思うけど、よろしく頼みます。何か困ったことや分からないことがあったら連絡してよね、遠慮せずに」と並木は答えた。湯原は入院先まで足を運ぶつもりだったが、並木は頑なに断った。「その時間があったらいいよ。ゴルフ指導に充てて」の一点張りだった。



ゴルフ部員勢揃い!! 中央の湯原監督の左が淵脇常広弘ヘッドコーチ、右は野木丈司トレーニングコーチ

埼玉県の坂戸キャンパスに設けられたゴルフ練習場へ足を運んだ湯原は、充実したスポーツ施設に驚きを覚えた。広大な敷地に野球場が二つ、サッカー場は三つ、フットサルコートに多目的グラウンド、アーチェリー場にソフトボール場などがあり、施設マップを手にしていなければ迷子になりそうな広さだった。

「こんにちは」。すれ違うスポーツ部員たちは皆、大きな声で挨拶してくれる。ソフトボール場では、五輪ソフトボール監督を務めた名将・宇津木妙子の姿があった。監督の指示に選手全員が「ハイ」と返答する。清々しさを覚えるほど声が揃っていた。同大学では強化クラブに、頂点を極めたレジェンド選手を監督として招聘している。かつては古葉や宇津木が監督就任で話題を集め、現在では硬式庭球部は佐藤直子、ウエイトリフティング部監督は64年東京五輪と68年メキシコ五輪の金メダリスト・三宅義信が務めている。

## 集合

強化クラブ監督としての重責を改めて感じたのだった。

郊外大型ホームセンターの建物をお借りするほどの屋内ゴルフ練習場に辿り着いた。オートティーアップ機能を備えた22打席の全天候型室内ゴルフレンジ。打席前にはオーガスタGC12番ホールのグリ

ーンを模したパッティンググリーンが配されている。

恵まれた練習環境が整っているものの、それを十二分に活用している部員があまりにも少なかった。全員集合の号令を掛けてはみたが、4年生の一人しか集まらない。

「他に誰も集まらないと思います。それぞれゴルフに行っているのでは……」

ゴルフ部の活動を無視し、部員たちは勝手な振る舞いをしているようにしか思えない。啞然とした後日、再び練習場へ行ってみたが、相変わらずの廃れぶりだった。部活に現れた部員から尋ねられるだけの話を聞いた。

湯原は並木に電話で問い質した。「ラウンドチャンスがあれば、練習に来ても来なくても構わないなんて言っていたの?」

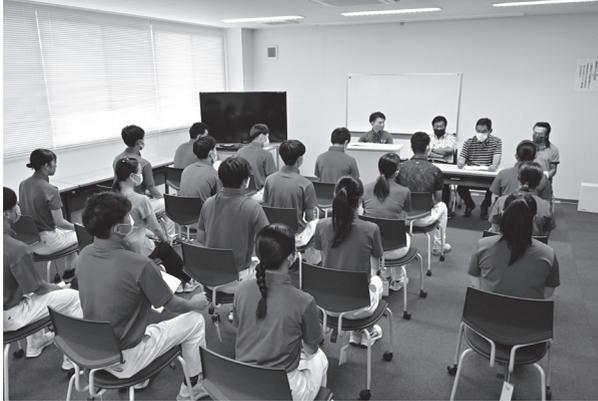
部員たちは並木前監督の発言を自分に都合のよい方に解釈していたことを知った。強化クラブながら、挨拶ができない、走れない、トレーニングがまともに出来ない。ゴルフの腕前を上げさせるその前に、すべきことがあり過ぎた。人としての礼節、エチケット、マナー、体作りを一から教え込まなければ始まらない。淵脇ヘッドコーチ、プロボクシング世界チャンピオン内藤大助や江藤光喜らを育成した野木丈司トレーニングコーチとの「トロイカ体制」で湯原監督は部の刷新に取り組み始めたのだった。

「その当時の主将にルール作りをさせました。『下手な部員とゴルフをしたくない』と勘違いしている部員がいるほどでしたから、まずは自らを律するように指示したのです」

ホウ・レン・ソウ。社会人になってからも必要不可欠である報告連絡、相談を徹底させた。SNSをフル活用し、午前7時と午後8時には体温と体調を部員全員に必ず連絡させた。部活を休む際は、署名入りの欠席届を淵脇コーチに午前8時までに提出。コースラウンドへ出掛ける時は、同行者と電話番号を予め伝える。部員全員が今、どこにいるかを把握できる連絡システムを構築した。

「当時は大会出場を理由にして公欠扱いを受ける部員が多かった。しかし、部が認めた大会以外は公欠にせず、学業をお座なりにしないように言い聞かせました。文武両道。授業を受ける時は最前列に着席するルールも作りました。もしサボったとしても教授がすぐに気づきますからね(笑)。部活の基本は、まず走り込んでの体力アップ。試合ではティーショットを打ったら、フェアウェイまでキャディバッグを担いで必ず走る。今では走る、プレーが早いゴルフ部としても有名になりました」

規範を厳しくしたことでゴルフ部は「健全化」していった。それに比例してリーグ戦でも好成績を挙げ始める。2013年の関東大



学秋季Cブロック対抗戦で初優勝を飾り、Bブロックに昇格した。湯原は「勝ったぞ!」と病床の並木に喜びの声を届けた。

2013年12月5日、午後3時。並木ゴルフ部前監督は原発不明が死した。55歳だった。念願のAブロック優勝を見届けられずに――。湯原はゴルフ部員全員を連れ、葬儀に参列した。その後、B

ブロックでの優勝を果たした際には、並木の妻に電話し「Aブロックに昇格できました」と連絡を入れ、墓前に吉報を手向けてもらったのだ。

湯原監督の指導ぶりを取材しに坂戸キャンパスへ出掛けた。ゴルフ練習場へ向かう道すがら、すれ違ふ学生も職員も「こんにちは」と挨拶してくれる。授業を終えたゴルフ部員たちが練習場に集まり始める。練習開始の準備をきびきびと整えている光景は、見ていて気持ちいい。お揃いのユニフォームを着ている部員の中に、一人だけ異なるスポーツウェアの女子部員がいた。

「充実した学生生活を送りたいからと、入部して来た学生です。ゴルフ経験がなく、規律が厳しい部なのですが、頑張っていますね。もうすぐユニフォームが出来上がってくるので渡すつもりです」

淵脇コーチは目を細めながらそ

う教えてくれた。湯原監督の「集合」の号令で全部員が玄関前に素早く集まった。お陰で記念撮影がスムーズにできた。打席横のネット越しに練習を見守る湯原は、呟き始めた。

「男女ともにAブロックで優勝。全国制覇。成績で言えばそれが目標。成績という結果よりも部員たちにはゴルフを通して自分を磨いて欲しいし、生涯ゴルフを続けてもらいたい。社会人になってからもゴルフはコミュニケーションツールにもなるし、何にでも通用しますからね」

先日、女子OB部員が顔を見せに来たという。「1年間で自動車50台を売り上げたと言っ

ガッツ溢れていた部員が社会人になっても頑張っているのは、本当に嬉しい。上司とラウンドする機会があり、ゴルフが上手かったこともあって女子ゴルフ部を作ったという話には感動しましたよ」

ゴルフ部の将来像を尋ねた。「常日頃から部員たちに『ギブ&テイク』じゃない、『ギブ&ギブ』だと言っています。人それぞれ個性があり、能力は異なる。だから、やれる者がやる。できる人ができない人をサポートしなさいをモットーにしています。だから、『さすが東京国際大学のゴルフ部員ですね』と誰からも言われるようになりたいですね」

卒業するゴルフ部員に、その証となるカレッジリングを湯原は贈っている。「公德心」という言葉がローマ字で刻まれているリングだ。

(文中敬称略)

1	16
2	17
3	18
4	19
5	20
6	21
7	22
8	23
9	24
10	25
	26



# GOLF STYLE

www.golfstyle.co.jp  
2022年9月5日発行 (毎月5日発行) 第21巻第5号

ゴルフスタイル  
vol.124  
2022.9 SEPTEMBER  
偶数月  
5日発売

## JGTOツアー ゴルフパートナーPRO-AMトーナメント 出場アマのクラブセッティング!!

バリバリの競技ゴルファーからエンジョイゴルファーまで  
すべてのゴルファーが楽しめる大会!



これは  
参考になる!!

「シニアプロ」  
51名の  
クラブセッティング

藤田寛之が最新シャフト・  
ヴァンキッシュでシニア初V!

